

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

1、 本園の教育・保育目標

「げんきながらだ かんがえるちから やさしいこころ」の教育目標に向けて、温かい雰囲気の中で子どもが安心して過ごし、豊かな環境の中で様々な体験を通して学びを支える。

2、 本年度の園評価の具体的な目標や計画

- 子どもの育ちや発達に添いながら、職員の専門性や教育・保育の向上に取り組む。
- 保育参加、個人面談の時期を検討し、家庭との連携をしやすくするとともに、保護者への情報発信の工夫や、保護者からの相談対応等を丁寧に行う。
- 防災、減災教育について再確認しながら、訓練等を行うとともに、危機管理能力の向上を図り、事故防止に努める。

3、 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	理由
<ul style="list-style-type: none">職員の専門性の向上を図り、教育・保育の向上に取り組む。外部研修等に積極的に参加する。	B	<ul style="list-style-type: none">園内研修で危機管理研修、指導計画研修、遊び研修等を行い、グループ討議をすることで、新たな気付きや再確認等をすることができ、以前よりも専門性が高まった。外部研修では、キャリアアップ研修に力を入れ、中堅職員の資質向上を図った。今後も職員が主体的に研修に参加することができるようにしていきたい。
<ul style="list-style-type: none">保育参加、個人面談、保護者への情報発信や相談等で、家庭との連携を丁寧に行う。地域の子育て支援のニーズを把握し、応じる。	B	<ul style="list-style-type: none">保育参加と個人面談を幼稚園が夏、乳児園が秋に実施することで、一人ひとりゆったりと行うことができた。連絡ノートでのやり取りをコドモン（通信システム）への入力にすることで、保護者も職員も時短になり、連絡をスムーズに取り合うことができるようになった。地域公開保育や、子育て支援センターとの連携を図ることで地域のニーズを把握することはできた。今後はどのようにして園運営に活かしていくかを考えていきたい。
<ul style="list-style-type: none">子どもや職員への防災教育、減災教育を行い、実施訓練に活かす。ヒヤリハット報告の見直しを行う等して、事故防止に努める。	B	<ul style="list-style-type: none">防災、減災に関する絵本や紙芝居を購入したことで、職員の意識が変わり、絵本や紙芝居を使って子ども達への伝達、訓練への活用ができた。ヒヤリハット報告の担当者を決めて、必ず年に1～2回は提出をするようにしたことで、職員の安全管理に対する意識が高まり、事故防止につながった。

4、 本年度の園評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートや評議員アンケート等を見ると、「園の雰囲気が良い」「先生方が明るくアットホームな感じで話しやすい」「子どもが園に行くのを楽しみにしている」という評価が複数あったため、職員の資質向上、教育・保育の向上ができた結果だと感じる。 ・保護者との連絡を通信システムにすることで、お互いに連絡を取りやすくなり、他の職員との情報共有もしやすくなったことで、今まで以上に送迎時の声掛けにつながり、保護者との良い関係性を形成し、継続することができた。 ・危機管理については、実際に津波警報による避難をしたこともあり、今まで以上に意識が高まり、職員の子どもの安全を守るという気持ちが強くなった。その上に、防災、減災の紙芝居の購入やヒヤリハット報告の事例などもあり、保護者の安心感につなげることができた。 ・評議員アンケートの中に、「前向きな考え方、チャレンジの気持ちでお願いします」というコメントがあったため、無理なく出来る範囲で新しい事に挑戦する等常に意欲的に取り組むようにしていきたい。

5、 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
・前向きな考え方、チャレンジの気持ちをもち、専門性の向上、教育・保育の充実に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修の方法を工夫し、職員が主体的に取り組むことができるようになる。 ・キャリアアップ研修、外部研修等を通して専門性の向上を図る。 ・職員間の話し合いを増やし、情報共有、情報交換をしながら、教育・保育に活かす。
・保護者一人ひとりとの十分な連携に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者世代とのジェネレーションギャップや、認識の違いによる勘違い、伝えたいことが上手く伝わらないもどかしさ等に対して、傾聴、共感、共有を心掛けて、一人ひとりの保護者に合った対応に努める。
・地域の子育て支援のニーズを園運営に活用する。	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援センターとの交流や地域公開等を通してニーズを把握し、園でできるところから取り入れていく。
・危機管理における様々な書類、計画等を見直し、実際に活用できるものにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアル、保育の標準的な実施方法、業務継続計画等の書類を見直し、重複しているところを一括してわかりやすくすることで、内容の共通理解をし、活用しやすくする。 ・訓練は様々な場面を想定して行うことで、どんな場面でも職員と子どもが自分で考えて行動することができるようになる。

「3、4」の評価結果の表示方法

評価	結果の表示
A	十分に達成している
B	ほぼ達成している
C	取り組んでいるが、成果が十分ではない
D	取り組みが不十分である

